

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第41週 (10/5-10/11) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	41週	40週	39週	38週
小児科	18	18	18	15
眼科	5	5	5	3
インフルエンザ*	28	28	28	22
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	10/5-10/11	9/28-10/4	9/21-9/27	9/14-9/20	9/28-10/4
			41週	40週	39週	38週	40週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱		1	1	0	0	7
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	7	2	4	104
	感染性胃腸炎		29	27	26	22	199
	水痘		0	6	2	3	22
	手足口病		1	1	0	1	9
	伝染性紅斑		0	0	1	0	0
	突発性発しん		6	10	11	7	46
	ヘルパンギーナ		9	5	4	4	18
	流行性耳下腺炎		2	3	1	1	11
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	0	0	0	1
			0.04	0.00	0.00	0.00	0.00
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	0	2	17
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	1	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	1
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(70件)

※新型コロナウイルス感染症66件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	50歳代	IGRA検査	結核	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	男性	70歳代	病原体の分離・同定等	新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~100歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	男性	80歳代	IGRA検査	-	-	-	-

・第41週は、結核4件(123)、新型コロナウイルス感染症66件(676)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

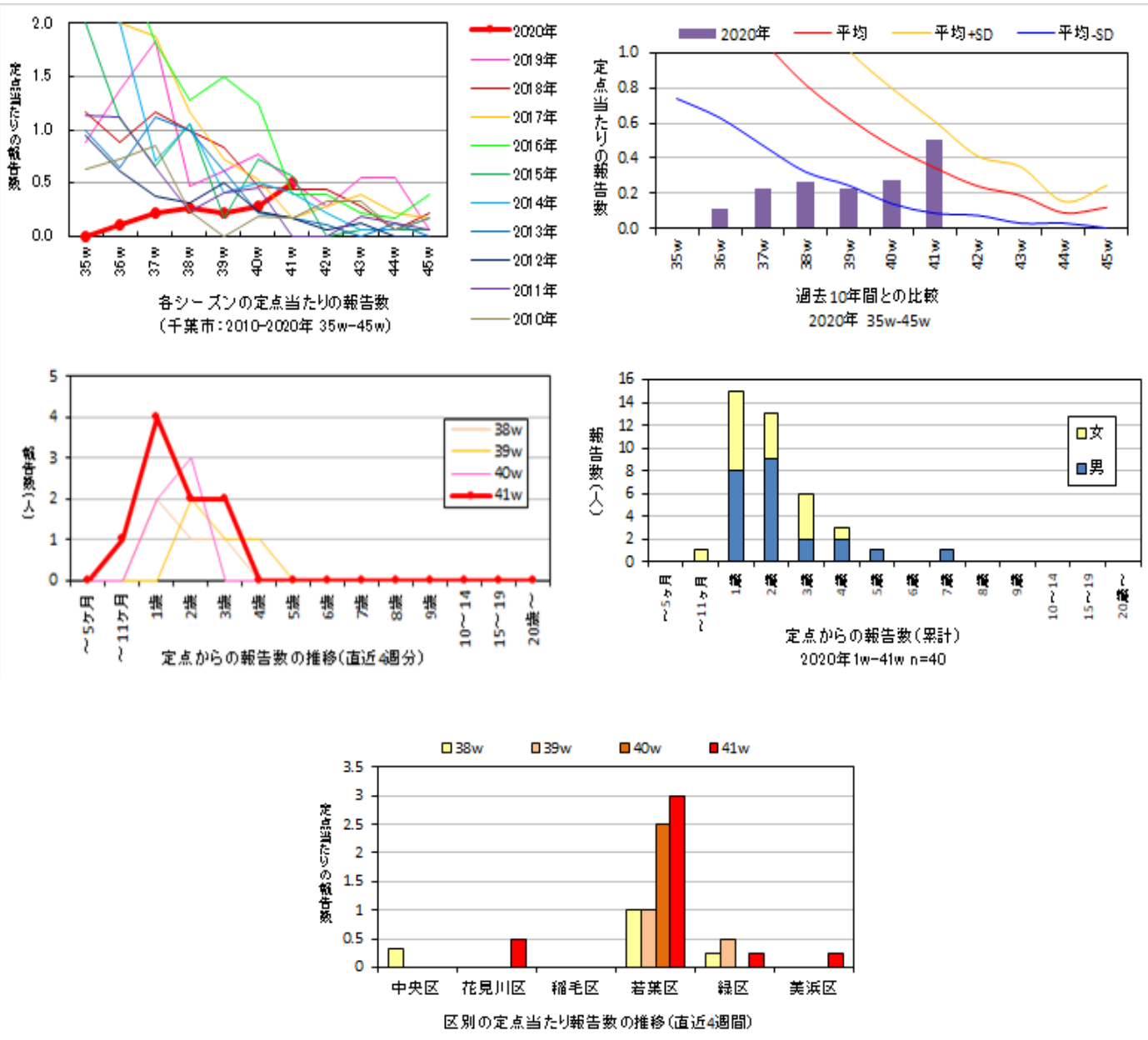
## 定点当たり報告数 第41週のコメント

過去10年の同時期と比べると、ヘルパンギーナ以外は全て平均未満又は報告無しとなっている。

<トピック>

<ヘルパンギーナ>

例年の発生動向とは異なり、第36週から次第に増加傾向となり第41週は前週より増加し過去10年の同時期より多めとなりました。区別の発生状況は、過去4週間で若葉区に多く、同区の1歳及び3歳で最も多く発生報告がありました。2020年の第1週から第41週までの累積報告数は40件で、男性が57.5% (23件)、女性が42.5% (17件)となっています。年齢階級別では1歳 (37.5% : 15件)、2歳 (32.5% : 13件)、3歳 (15.0% : 6件)の順で多くなっています。



ヘルパンギーナは、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎で、乳幼児を中心に夏季に流行します。

毎年5月頃より増加し始め、7月頃にかけてピークを形成し、8月頃から減少を始め、9～10月にかけてほとんど見られなくなります。患者の年齢は5歳以下が全体の90%以上を占め、1歳代がもっとも多く報告されています。

原因ウイルスは主にコクサッキーウイルスA群で、感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。急性期に最もウイルスが排泄され感染力が強まりますが、エンテロウイルス感染としての性格上、回復後にも2～4週間の長期にわたり便からウイルスが検出されることがあります。

潜伏期は2～4日で、突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、咽頭痛や咽頭発赤が現れ、口腔内に1～5mmの小水疱、これから生じた小潰瘍、その周辺に発赤を伴ったものが数個認められます。全身倦怠感、食欲不振、嘔吐、四肢痛などが起こる場合もあります。

特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。ワクチンはなく、予防方法は感染者との密接な接触を避ける、手洗い、咳エチケットが有効です。